



平成9年(1997年)度教育実習を振り返って

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2017-07-07 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 佐藤, 有 メールアドレス: 所属:
URL	https://hokkyodai.repo.nii.ac.jp/records/9260

平成9年（1997年）度教育実習を振り返って

平成9年度の小学校教育実習（小学校課程3年生、6週間）、中学校教育実習ⅠA（小学校課程4年生、1週間）、同ⅠB（社会教育課程3年生、1週間）、同Ⅱ（社会教育課程4年生、2週間）、障害児教育実習（小学校課程4年生、2週間）が大きな問題もなく無事終了しました。まず、関連諸市教育局ならびに各学校の校長先生はじめ諸先生方に心から感謝申し上げます。

今日、教師の資質向上ということをよく聞きます。教師の資質という場合、次の6点を上げることができます。(1)教育者としての使命感、(2)人間の成長・発達についての深い理解、(3)幼児・児童・生徒に対する教育的愛情、(4)教科等に関する専門的知識、(5)広くて豊かな教養、(6)それらを基盤とした実践的指導力です。私は特にこの中で実践的指導力ということが大切ではないかと感じています。また、豊かな個性と魅力的な人間性を備えた人材を教育現場へとどう送り出せるかということも気になるところであります。

こうした課題に応えるために、岩見沢キャンパスでは教育内容・方法の改革への努力を重ねております。がしかし、先に触れました実践的指導力、豊かな個性の魅力的な人間性を備えた人材の育成といったことに応えるためには、実習のような現場の協力を抜きにはありえません。極めて当たり前のことですが、理由は次の通りです。

(1)学生諸君は実習によって援助される立場から、援助するという全く異なる世界を体験する。(2)実習にあっては具体的かつ全体的な文脈の中で、考えることと為すことが関係づけられる。大学での授業との関連では、(3)授業の多くが実地外学習であるため、その参加していくためには教育現場の状況を頭の中で活性化することが求められる。そのためには学生が教育現場の具体的な状況を実際に体験していなければならない、ということです。

実際、学生諸君は実習では実に多くのことを学び、子どもとの触れ合いを通して大きな満足味わっております。また実習後は学習に対して鋭い目を獲得して戻ります。大学の授業の在り方に対する鋭い批判者となります。また大学での学習に積極的に参加するようになります。

国大協の教員養成制度特別委員会がまとめた教育大学・教育学部学生の職員への意識と意見の中間報告（平成5年）によれば、教育実習はそのプラスの反面、マイナスの効果ももたらしめているそうです。即ち、自分が教職に不向きだとか、教職は困難だとか、だめだと感じた者が、男子37%、女子で49%にも上るそうです。（これは高等学校も含んでいるはずですが。）こうした傾向から考えてみて、岩見沢キャンパスの学生が、それぞれの実習校でよくいただいていることは極めて例外の部類に属するのかも知れません。

さて、本年（平成10年）入学者から、小・中学校の教員志望者には、障害者や高齢者の介護体験を義務付ける教員免許法特例法が適応されます。また岩見沢キャンパスでは、これまでの特色の一つとしてきた小規模校教育実習を平成11年度から拡大・充実を検討中です。さらにはこれら2つの実習と小・中・養護教育実習とを有機的関連を図ることも考慮中です。

こうした新しい試みのためには教育実習委員会は勿論、学生諸君の主体的な参加と責任ある行為が求められます。また関連諸教育局、学校、施設等のご協力とご指導なく進めることはできません。

終わりに、平成9年度の教育実習を成功させるためにご協力を頂いた諸関連教育局、学校の皆様にも再度感謝申し上げますとともに、更なるご指導をお願い申し上げます。また意欲的に教育実習に参加してくれた学生諸君に感謝します。教育実習委員会の教官の方々および同委員会担当の事務官の方々には多様なスケジュールの中、任務遂行に専念頂いたことに感謝申し上げます。

教育実習委員長 佐藤 有